

## 「世界救済の大道」より①

(昭和四十年 十二月発行)

### 「人類の真意義」

人とは如何なるものを解釈すると辞典には、「動物中最も進化し、最もすぐれたもの。言語・思想・理性の性能を有するもの」とある。これは唯體的・学問的な解釈である。精神的に解すると、人は宇宙意思が元で御祖の神の生みませるものであるから、先ず御祖の大精神を理解して、人類の意義を深く理解することが大切である。天地間に萬物・萬生を孕み給うも、目に見えない気形透明体の中に自然の養素があつて御祖の御意思、即ち宇宙意思により地上に萬物の生命が宿るものである。大空間に御祖の神が御生みなされる業は精神産業であるが、地上に體的物質的に生まれる時は、産業精神といっている。人の目に見えない気形透明体に萬物の生命養素があつて精神産業せられているが、これを解釈して人に判り易く説明したくても説明する言葉がない。より以上に人の精神が向上すれば自然に言葉が生まれるものと思う。今としては宇宙間に生物を孕み給うて地上に生まれたものを人類と解釈しているのである。人類萬物は大自然の力によって生まれたものであるから、精神的に解釈することが最も正当である。體的には人間の父母によって生み育てられるが、精神的には人の目に見えない陰の御守護によって生命を与え、空気・意気を送り、生きる力を与える宇宙御祖の神の御存在を忘れてはならぬ。